

# 穂村 弘 さんに会える!

(歌人・エッセイスト)

## ～『読書人カレッジ』～

日時：6月13日(木)16時30分～18時00分

場所：大学図書館 B2F

※Zoom参加も可能。Zoom情報は、e-passでお知らせ。都合の合わない方は、後日録画の視聴も可能。

鋭い感性とユニークさの源に触れる絶好の機会ですので、ぜひご参加ください。

### <穂村弘(ほむらひろし)さん プロフィール>

歌人。1962年札幌生まれ。

1990年、第一歌集『シンジケート』でデビュー。短歌をはじめとして、評論、エッセイ、絵本、翻訳などを手がける。

著書に『手紙魔まみ、夏の引越し(ウサギ連れ)』『ラインマーカーズ』『世界音痴』『もしもし、運命の人ですか。』『君がいない夜のごはん』『蛸足ノート』『迷子手帳』など。伊藤整文学賞、講談社エッセイ賞、若山牧水賞他を受賞。日経新聞歌壇選者。



### <講義概要>

言葉は道具ではなくて生き物に近いんじゃないか。そんな言葉の不思議について考えてみたいです。

#### ●不思議な言葉の例

「でも、さっきそうおっしゃったじゃねえか!」…新入社員がクライアントに向かって云った言葉です。

「きびしい半ケツが出ました」…ニュースの聞き間違いです。

「ああ、あの子たちにうちのシイタケを食べさせたいねえ」「誰よ、あの子たちって」

「ウィーンの、ほれ、少年合唱団よ」…バスの中で耳にした会話です。

「読書人カレッジ」で「本を読むこと」「文章を書くこと」、  
そして「表現をすること」の楽しさ、奥深さを再発見!



本は小さな「どこでもドア」です。新たな本を開くたびに、新たな世界が開かれます。すぐれた小説がそうであるように、その世界をわたしたちは——いま・ここにいながらも、ひととりの間——「生きる」ことができます。そうしてわたしたちは、ひとの心や想いについて、過去や異郷の出来事と暮らしについて、身のまわりで起きていることやこれから起きるかもしれないことについて、深く知ることができるようになります。

もっとも、それはたんに知識が増えるということではありません。なぜなら本を読み終える——「どこでもドア」の向こうから帰ってくる——ごとに、わたしたちは人間を、世界を、新たな目で見ることができるようになっているからであり、またそれゆえに、一人ひとりが新たな「わたし」に——そうとは気づかないうちに——変わってもいるからです。

その意味で、読書とは本来、愉悦に満ちた経験のはずなのです。また「大学での学び」にも読書は欠かせません。しかしその理由は、課題やレポートのために必要だから、というだけではありません。「大学での学び」の目的が、知識だけではなく、すぐれた知性と豊かな感性も身につけることにあるから——言い換えれば、「思考する力」と「他者を想う力」を養い、そうして「自分の人生を自分で切り拓いていく力」を身につけることにあるから——なのです。

学サポ×図書館の企画『読書人カレッジ』は、皆さんがそうした知性と感性、力を身につけていくための手がかりを提供します。この機会に「本を読むこと」の、そして「文章を書くこと」「表現をすること」の本来の意味と楽しさに、あらためて目を向けてみませんか。皆さんの参加をお待ちしています。

学サポ×図書館 スタッフ一同



お問合せ: 東洋英和女学院大学 学習サポートセンター ([gakusapo@toyoeiwa.ac.jp](mailto:gakusapo@toyoeiwa.ac.jp))